

# 太郎坊宮・猪子山探訪記

副会長 柳原輝明



■  
以前から気になっていた滋賀県のイワクラ探訪に行ってきた。

太郎坊山はピラミッド状の岩山ということ、以前訪れた白石島のピラミッド状岩山との相似性が気になっていた。また、猪子山は以前大阪の河内にある二つの磐船神社を調べたときに同じ名前の神社として目に付き、気になっていた。今回、その気がかりを解消すべく出かけた。

当日は曇りがちで、すっきりとしない天気であった。出かけるにあたりその道筋を検討した。我が家からは近畿道、名神高速道路を使っていく方法、奈良に出て、京奈和自動車道、京滋バイパス、名神高速を使っていく方法、それと名阪道路を使い伊賀越えて滋賀県にはいる三つのルートがある。今

回、第三のルート名阪道路から伊賀越えて滋賀県に入るルートを選んだ。

## 1. 太郎坊宮

名阪道路天理インターから入り名阪道路伊賀インターチェンジを出て水口方面の標識に従って伊賀の山道に入った。完全二車線の道路で、交通量も少なく快適に走る事が出来た。途中に「甲賀の里忍者村」なる看板があるが横目に見て通り過ぎる。水口の市街地に入ると道が入り組み、方向を見失いがちであった。どうにか市街地を抜け、近江八幡の標識に従ってひたすら車を走らせた。家を出てから3時間弱、途中で少し道を外れたがようやく前方に三角錐の岩山が見えてきた。近づくともそれは巨大な岩山であり、その姿は美しい。昨年訪れた白石島のピラミッド状



赤神山

の岩山そっくりであった。長い参道を通ぎ岩山の足元に到着。入り口から延々と続く階段。本殿まで七百四十段。思案の末、社務所のある中腹の駐車場まで車で登る事にした。それでも、本殿までは二百数十段ある。駐車場に次のような案内があった。

『勝運授福の神「太郎坊宮」（阿賀神社）、標高350mの巨岩が



夫婦岩

露出した通称「赤神山」の中腹にある。「太郎坊」とは京都鞍馬の次郎坊天狗の兄天狗でこの社を守護していると伝えられている。約1400年前の開基で、天照大神の御子、正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊を祀り、勝運授福の神として崇められている。その昔には・聖徳太子や最澄も参拝したといわれ、また神秘的霊山として修験の場となっている。』

駐車場に車を止め、そこから本殿に向う階段に取り付く。急な階段で高所恐怖症のものにはどきどきする階段である。登りは良いが、下りの階段はかなり恐怖であろうと思いつつ登り始めた。登りはじめて五十段ほどのところに社務所があったが、帰りに寄ることにしそのまま登り続ける。さらに急な階段を手すりを頼りに四・五十段、長楽殿に到達。さらに登ると永安殿に到達。そこには湧き水があり、手を清め、喉を潤してさらに登り続ける。拝殿に到達、ここでしばしの休憩。拝殿の後に巨大な夫婦磐が聳えている。夫婦岩は高さ十数メートルの巨岩で、かつては一つの岩であったのが神力により左右に開いたといわれ、その隙間は幅80cm長さ12メートルの細い通路となっている。この通路を嘘つきな人が通ると岩に挟まれるという言い伝えがある。狭い通路を抜けると本殿である。



夫婦岩の間の通路

そこには100㎡程の広場がありそこからの眺望は見事である。今は見渡す限り田圃となっているが、おそらく古代この岩山が神として信仰されていたとき一面の湖ではなかっただろうか。湖水に浮かぶピラミッド状の岩山、今の我々が見ても何か神々しさを感ずる姿に、古代の人たちが神と崇めるのは当然といった想いであった。本殿でしばしの休憩を取ったの

ち下山。社務所によって冷たいお茶のサービスを受ける。汗をかいた体に冷たい玉露の味がしみこんだ。

## 2. 猪子山

太郎坊宮を出て北東に道を取り能登川町に向う。新幹線を横切り野洲川に沿って北上、国道8号線に出合う。8号線を横切りさらに北上するとJR能登川駅に到着。猪子山はこの能登川駅のすぐ南に面しており、狭い集落の道を通り抜けると猪子山公園に着いた。入り口から車の道が頂上までつながっており、この道に乗り入れた。入ってすぐの右手に巨大な磐が見え、なんだ?と思いを止めて踏み入った。そこにはながさ10m、高さ3〜4mの巨大な岩である。横から見て船先と艫が競りあがった古代の船と言った趣である。傍

らに神社があり、「岩船社」と言う。



磐船(横からの姿)

祭神は津速霊大神で、神亀五年(西暦七二八年)高島比良の山より湖上をこの地に渡りたもうた比良大神(白髭明神)が御乗船されたものと伝えられている。お参りするべく社の正面に回ると巨大な磐の船先がみえ、まさしく磐船というに相応しい形をしている。この磐船よりものの2〜30m



磐船(正面からの姿)

登ると右手にそのものずばりの「磐座」の立て札が目についた。立て札に『社伝古文書に天慶年間(九二八〜九四六)菅原道真公の御神霊比良より織山の勝菅の岩屋に鎮まり給うとあるが、この磐座を指すものと思われる。磐座は古代における巨石崇拜時代の遺品で社殿の作られる以前の風習で岩石の上面または巨石を御神体もしくは神の出でます座所とみなされていた。』とあった。車

を道の傍らに寄せ、徒歩で狭い山道に踏み込んだ。ものの20mほどで小さな組石に出会う。その後、後に巨大な苔むした磐が現れた。高さ5〜6m、横幅10m程の大きさである。先ほどの小さな磐はこの巨石を主石とする磐座の境界石であろうと推測できる。かなり周りがあらされてしまい、祀り場としての磐座形状が破壊されているが、それでも充分荘厳さが残っている。



磐座



頂上の磐座



岩屋観音と御神体磐

この後、道なりに頂上近くの駐車場に到着。車3〜4台留まれる程度の小さな広場である。頂上へはそこから階段が通じており、頂上に祀られている「十一面観音」の幟がはためいていた。頂上はすぐそこと思いきり始めたが、行けども行けども頂上に着かない。そこを曲がれば頂上かと思えばまだ先に階段が続いているといった状況である。途中に小さな磐座が見えたが、多分この山中にはこうい

った小さな磐座が多数存在しているように思えた。ようやく頂上にたどり着いた。頂上には巨大な磐が何段にも積み重ねられたかのようない見事な岩組みが現れた。5〜10mもの巨石が3段に積み重ねられ、その北側には十一面観音が彫られた立石がそそり立っている。立て札に曰く『北向岩屋観音 桓武天皇の延暦十年(西暦七九一)坂上田村麿が鈴鹿の鬼賊を討伐の際この織山五嶺の東北端烏帽子磐

岩窟内に十一面観音菩薩の石像を安置して祈願されたと伝えられている。』  
ここからの眺望は360度、はるか彼方まで見通すことが出来る。琵琶湖を渡る船からはこの磐は非常に良く目立ったであろう。おそらく琵琶湖航行の古代人のランドマークとしての役割を持っていたのではないかと思う。その一つよりどころは、この山の麓にある「磐船神社」である。以前の会報で「河内の二つの磐船神社」について述べた。そこで、船型の磐を御神体とする「磐船神社」は古代の港の役割を持つていて、その山の頂上や中腹にはその港の位置を指し示すランドマークとなる巨石が存在している」と記した。この猪子山もその意味で、まさしく古代の港であり、それを指し示すランドマークではなかったかと思う。ただ、河内の磐船神社の祭神はともに「ニギハヤヒの尊」であるが、猪

子山のそれは「津速霊大神」の違いがある。

なお、余談であるが猪子山に渡ってきた比良大神の出発の地である対岸の高島の白髭神社にはイワクラが多数存在するという事である。



頂上からの眺望

### 3. 三上山

猪子山の帰途近江八幡市に立ち寄った。近江八幡市は水郷で有名で多くの観光客が訪れている。市街地は昔の町並みや近江商人の館など多くの観光名所がある。今回立ち寄ったのは市の北方にある長命寺山にイワクラがあるとの情報があったからであるが、結果として道を間違え到達する事が出来なかった。

時間も遅くなってきたのでそのまま帰途についた。途中三上山の横を通ることから立ち寄ってみた。国道8号線から少し横道に入った所に登山口があった。表登山口と裏登山口があり、表登山口は集落の住宅の間の細い道につながっている。道からすぐに急な階段が続いておりその突き当たりには巨大な磐が聳えていた。登るかどうか思

案したが時刻も遅く、途中で日が落ちる可能性が高い事から今回入山はあきらめた。近いうちに是非登りたいと思いつつ麓から見える巨石を撮影した。麓から見ただけでも圧倒される巨石が見える。

今回、太郎坊宮と猪子山の二ヶ所しか見ることが出来なかったが、滋賀県にはまだまだイワクラの山がありそうである。イワクラの宝庫といえるかもしれない。しかし、滋賀の磐座についての情報は意外と少なく、研究されている方も少ないのかもしれない。滋賀に住む人たちによる滋賀県の磐座調査が活発になる事を期待したいと思った。



三上山登山道入り口にあるイワクラ

了